



医療福祉・在宅看取りの 地域創造会議 通信 第67号



平素は、「医療福祉・在宅看取りの地域創造会議」へのご理解・ご協力ありがとうございます。

今年は開花宣言が遅れたおかげで、ちょうど入学式の頃に見頃となりました。新入生のお子様・お孫様のいらっしゃる方は、きっと心に残る素敵な一枚が撮れたことと思います。それにしても最近のランドセルは様々ですね。ピンク・紫・青・水色・キャメル・・・集団登校の集合場所はとてもカラフルです。さて、「平成」も残すとこわずかとなりました。去り行く時代を惜しみつつ、「令和」への期待に胸膨らませている今日この頃ですが、皆様はいかがでしょう。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

第66回ワーキング会議 (3/28)

滋賀県庁 3F 中会議室

自己紹介では日頃の活動内容に加えて「今、はまっていること」を教えてくださいました！



将棋・カメラ・ボーリング・弾き語り・運動・歴史・足つぼマッサージetc
皆さん、プライベートでも積極的に活動し、日々楽しまれている様子がうかがえました。

次第

☆18:30～ あいさつ・自己紹介(全員)

☆18:40～ 「平成30年度事業報告」

☆19:00～ グループワーク

次年度の取組検討

①WGで取り組みたいテーマ

②啓発

「住み慣れた地域で自分らしく暮らし続け望む最期を迎える」
地域包括ケアの実現に向け、自分たちの事として考えてもらうためにはどんな啓発が必要か？自分たちにできることは？

グループワークより

『普及啓発事業として県民にどんなことを知っていただけると良いか、どんな啓発をしていけば良いか』ということについて、グループで話し合いました。

これまでずっと啓発に取り組んできたが、未だに十分に浸透していない。

啓発資料を見直して、人の目に触れる機会を増やしてはどうか。また、他県では、ACPの普及のために高校生への宿題として家庭で話し合う機会を設け、その内容を学校に持ち帰ってもらうという取り組みもある。このような教育との連携も有効ではないだろうか。



高齢化を悲劇と取らないように。
エンディングノートにも、死ぬまでに何をしたいのかという希望や、死までの楽しさを付け加えていきながら、生活の中で健康とか幸せとかいうことを伝えていくことが大切。

在宅ケア・看取りが進まない要因として「知られていない」「やり方がわからない」ということが大きいのではないだろうか。

どういうふうに在宅看取りをしていくのかプランニングし、それをもとに「こういうふうにすれば在宅看取りができます！」と私たちが各地域で広めていってはどうだろう。

「おひとりさま」「団塊の世代」など、ターゲットを絞って啓発を実施してはどうか。

「支える」という言葉は若者への負担感につながるのでは？



○次回ワーキンググループ会議

4/18(木) 18:30～

県庁北新館 5A会議室

○総会 8/25(日) 13:30～17:00

ピアザ淡海 大会議室

○県民フォーラム 11/16(土) 午後

東近江市能登川コミュニティセンター

今年度のワーキンググループ会議では・・・

「排泄自立支援プロジェクト～死ぬまで自分でトイレが使えるように～」

をメインテーマとして進めていく予定です。皆様の「聞きたい」「知りたいたい」「知ってほしい」も随時募集しています。

医療福祉・在宅看取りの地域創造会議運営事務局

金岡・西浦

(今年度より担当が替わりました。よろしくお願い致します。)

TEL : 077-528-3529 FAX : 077-528-4851

E-mail: info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp

